

宮司ご挨拶

御嶽山の長く厳しい冬もようやく終わりに近づき、其處此処の木々の葉に春の息吹を感じる季節となつてまいりました。平成三十一年の春を迎へ、皇室の弥栄をお祈り申し上げますと共に、講中・崇敬者各位のご繁榮を心よりご祈念申し上げます。

御代替

語るなく重きを負ひし君が肩に早春の日差し静かにそぞぐ

(昨年の歌会始の儀で、陛下の重責について詠まれし皇后様の御歌)

今年は、平成から次の代へ『御代替』と云う新たな時代が開かれる、一代一度限りの重要な神祭りの年でございます。五月一日は、新たな元号に「改元」され、第百二十六代の新天皇のご即位される大変お目出たい年でもございます。

平成天皇・皇后両陛下におかれましては、常に「国民と共にある」というお考えのもと、三十年と云う長きにわたり匡の安全と国民の安寧を心よりご心配下さり、そのご厚情に深く感謝を申し上げる次第であります。

特に阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災を含め各地に起こった集中豪雨と、災害の相次ぐ被災地をその度に訪れては、膝をついて被災者の痛みに寄り添うその姿に深い感銘を覚えたところでございます。

平成三十一年三月

武藏御嶽神社 宮司 須崎 裕

陛下の誕生日のお言葉に、『日本国憲法の下で、象徴と位置づけられた天皇の望ましい在り方を求めるながら過ごしてきました。そして平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに安堵しています。』と述べておられました。正にこのお言葉に、陛下の人間性として国民に対する慈しみのお気持ちが込められており、大変有難く拝聴させていただきました。

また、新天皇におかれましては、五月一日の即位の礼にはじまり、これから一連の重要な行事が続くわけでございますが、総ての行事が滞りなく莊厳に執り行われますよう、乞い願う次第であります。

新天皇にご即位されます皇太子様には、御嶽山にハイキングでご登山頂き、有難くも当神社にもご参拝を賜りました。その折には、大変気さくにお話し下され、優しく接していただきました。そのお人柄に深く感銘をいたしましたことを想い致しておるところでございます。新天皇のご即位に奉祝の誠を捧げ、更なる皇室敬慕に努めて参る所存でございます。神社と致しましても、ご即位奉告祭を厳しくご奉仕申し上げ、境内に記念の植樹を行うべく、現在準備を進めておるところであります。

そして、末永く平和な世の中が続きますことを願い上げますと共に、自然災害に見舞われることの多い列島で暮らす人々の安全を、御嶽大神様のご加護により、今年こそ平穏な良い年になりますよう、ご祈念申し上げ、神職一同、尚一層の神明奉仕に務めて参りたく存じます。

御嶽山は、これから新緑・百花繚乱の素晴らしい季節を迎へます。どうぞこの機会に、講中・崇敬者の皆様にはお誘い合わせの上、多勢のご参拝を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方の益々のご活躍・ご健勝をお祈り申し上げご挨拶といったところでございます。

そこで、未永く平和な世の中が続きますことを願い上げますと共に、自然災害に見舞われることの多い列島で暮らす人々の安全を、御嶽大神様のご加護により、今年こそ平穏な良い年になりますよう、ご祈念申し上げ、神職一同、尚一層の神明奉仕に務めて参りたく存じます。

御嶽山は、これから新緑・百花繚乱の素晴らしい季節を迎へます。どうぞこの機会に、講中・崇敬者の皆様にはお誘い合わせの上、多勢のご参拝を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方の益々のご活躍・ご健勝をお祈り申し上げご挨拶といったところでございます。

● ● 講中を訪ねて ● ●

武藏御嶽神社 御嶽講

「はらしま会発足四十周年記念」

はらしま会 五代目 会長

川崎市 市ノ坪御嶽講 講元 横山 恒好

原島会は、御嶽講講元・世話人の親睦並びに、御師原島家との連絡を密接に行うこと目的に発足いたしました。

初代会長 横山新太郎、二代目 須崎卓司、三代目 石井朋男、四代目 加藤亮一の代々会長の方々が会の発展に寄与されました。

講の所在地はそれぞれ違いますが、それらの講の講元、世話人が毎年一同に会し懇親を深め情報の交換を行うことが出来ますのは大変有意義な事であり、御師原島一臣氏のもと、原島会の繁栄に少しでもお役に立てればと会長を引き受けました。

武藏御嶽神社と、わが市ノ坪御嶽講との歴史は古く、遠い昔から作神様と言われており、農家にとつては切つても切れない尊崇される神様でした。講ができるのも相当古く、約百八十年前の記録もあり、現在まで続いている。そして昔は、村中が講員で四十八名の氏名が連記されていたと聞いています。

私が子供心に覚えているのは、現在の御師原島一臣氏のお祖父さんがお見えになり、講員の家々に神札を配る際お供で廻り、我が家へ泊まり、翌日に他の地域に行かれたのを覚えていまい。

昭和五十四年十一月に、原島会が発足し、初代会長に私の父親が就任し、十二月には御靈分け遷座式が行われ、現在も御師が巡回する際、最初にその社に大口真神の神札を供えた後、安全と火難、盜難の神札を講員に配札するのは今でも続いている。

昭和五十五年四月に結講百五十年を記念して、七十五名登山記念の石碑を隨身門を潜った左側参道に建立しました。それ以来、武藏御嶽神社参拝は、



- 3 -



平成三十一年三月

武藏御嶽神社 宮司 須崎 裕

- 2 -



平成三十一年十月二十七日 太々神樂奏上
鳥居前広場での撒き銭

主幹宮司 原島 一臣
所在地 神奈川県川崎市
講員数 約 七十五名



平成三十一年十月二十七日 太々神樂奏上
鳥居前広場での撒き銭

主幹宮司 原島 一臣
所在地 神奈川県川崎市
講員数 約 七十五名